

成果の説明書

(氏名) 黒崎 龍悟	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p><研究></p> <ul style="list-style-type: none">自然エネルギー、とりわけ地域に密着した水力利用のあり方や社会における意義について社会的文化的側面に着目しながらアフリカの事例、日本の事例について研究を進めてきた。それに関連する成果は以下のとおりである。<ul style="list-style-type: none">出版物 伊谷樹一・荒木美奈子・黒崎龍悟 編著 (2021)『地域水力を考える—日本とアフリカの農村から』昭和堂研究報告 黒崎龍悟 (2020)「自然エネルギーの研究を通じたタンザニアと日本の農村の往還」『日本アフリカ学会 第 57 回学術大会 (公開シンポジウム「アフリカ研究と社会の繋がりを考える: 開発をめぐる対話」』(5月 23・24 日オンライン開催) <p>② 東アフリカ、タンザニアの農村を事例に、農民発のイノベーションの普及の実態についての調査を続けている。とくにイノベーション伝達の手段のひとつとして農村金融組織の動向について注目した。関連する成果は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none">出版物 黒崎龍悟 (2020)「タンザニアのコーヒー生産農村における Village Community Bank (VICOBA) 普及の背景」『高崎経済大学論集』63 (2) : 33-50。 <p><教育></p> <p>講義形式の授業はオンラインに切り替わったことによって、講義形態の大幅な変更を余儀なくされたが、Zoom のチャット機能を活用することによって双方向的な授業にしよう努めた。</p> <p><社会貢献></p> <ul style="list-style-type: none">教員免許状更新講習として、『現代の諸課題とアフリカ地域社会』(8月 12 日、オンライン) を担当した。NPO 法人アフリック・アフリカ主催のウェビナー (市民講座) においてアフリカの自然エネルギー利用について報告した (『アフリカ先生ウェビナー: もっと知りたいタンザニア 第 5 回 タンザニア農村にみる環境とのつきあい方』(8月 29 日)。	
<p>2 その他の事項</p> <p>学内業務として、国際交流委員、経済学会・副会長、地域科学研究所・総務企画委員長を担当した。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>教育・研究ともに新型コロナウイルスの影響を大きく受けた一年であった。引き続き厳しい環境におかれることが考えられるが、限られた条件のなかで最大限工夫して、教育・研究の内容向上に努めていきたい。</p>	